

経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⁸⁰

めんべきくねん
面壁九年

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

唯一のことを
真面目にやればよい

9年間の長い間、洞窟の壁に向かつて座禅を組み、悟りを開いたという達磨大師の故事から転じて、1つの目的に長い歳月をかけて心を傾け、辛抱強くやり抜くことを「面壁九年」という。

面壁九年の修行から得た悟りを窺い知ることのできる「周梨槃特の物語」という法話がある。

釈迦に弟子入りをした周梨槃特は、生まれつき物覚えが悪かったことから、お経の1行も覚えられずに悶々としていた。

その愚かさを嘆いて釈迦に破門を願い出たところ、1本の箒と塵取りを渡され、「お前は、経典を覚えなくとも良い。代わりに、これで毎日掃除をしろ。掃除の間は、必ず『塵を払い、垢を除かん』と唱え続けること。これなら何とか覚えられるだろう」と教えられたのである。

その日から毎日欠かさず、何年も何年も教えられたとおりに掃除を根気強く一生懸命に続けた周梨槃特は、身の回りの塵や垢のみならず、やがて自分の心の塵や垢^{*1}

までもすっかり取り除くことができるとなり、後に阿羅漢^{*2}と呼ばれるまでになった。

多くの場合は、あれもこれも急いで結果を出さなければと慌てふためく人にはなれども、唯一のことを真面目にやればよいと、やりきる人は少ない。

「腹が据わっている」と自負する人でさえも、「石の上にも三年」が目安になってはいないだろうか。

実を結ぶまでには「桃栗三年柿八年」の喩えを紐解くまでもなく、それぞれの成長には違いがある。

「悟りを開くとは、たくさんのことを覚えることではない。たとえ些細なことであろうとも徹底すれば、それでよい」という釈迦の教え方、それを実践に移した周梨槃特から「介護職員処遇改善」を学び直すきっかけになれたらうれしい。

人が集まる10の法則

椰の木は、その読み方が風に通じることから航行の安全を願う舟に乗る人々によって信仰され、その葉を災難除けのお守り袋や鏡の裏に入れる風習がある。また、縦に伸びる葉の繊維が強いことから、

引つ張っても容易に切れないため、嫁ぐ娘の花嫁道具のなかに椰の葉を忍ばせて、嫁いだ先の家で波風を立てて縁が切れることがないようにと願う親心をくすぐるような習慣もあれば、裏も表も同じように綺麗な葉の特徴をとらえ、裏表なく正直に生きることを期する証としても重宝がられ、熊野神社の御神木としても知られる。

人間関係の荒波が絶え間なく続いている事業所にとっては、些細なことだが、古人の知恵を大切に活かしてみるのも一計である。

訪問先の介護事業所で目に留まったのが、「人が集まる10の法則」である。

- ①人は人に集まる
 - ②人は夢の見られる所に集まる
 - ③人は快適な所に集まる
 - ④人は満足が得られる所に集まる
 - ⑤人は為になる所に集まる
 - ⑥人は感動を求めて集まる
 - ⑦人は心を求めて集まる
 - ⑧人は自分の存在感を認めてくれる所に集まる
 - ⑨人は噂になつて集まる
 - ⑩人は良いものがある所に集まる
- ただひたすら「面壁九年」を真面目にやれば、人は集まる。

*1: 心の塵や垢は「心の塵」や「心の垢」は煩惱を表す仏教用語。

*2: 阿羅漢=尊敬や施しを受けるにふさわしい修行僧。